

第19回横浜支部通常総会×記念講演会特集
被災地支援活動紹介ほか

よこはま
支部だより

issue 2012.8.1

VOL. 57

社団法人 神奈川県建築士会 横浜支部

THE YOKOHAMA BRANCH, KANAGAWA PREFECTURE SOCIETY OF ARCHITECTS & BUILDING ENGINEERS

CONTENTS

●暑中のご挨拶 ○横浜支部長 山成芳直	p1
●支部通常総会報告① ～総会議事録～ ○総務委員会	p2
●支部通常総会報告② ～支部活動報告・組織図～	p3
●総会記念講演会 ～建築家：中村好文氏～ 「小屋の流儀・設計の流儀」	p4
●絵画同好会だより ～江の島をスケッチ～	p5
●テニス同好会だより ～定例会・他支部交流ほか～	p6
●ワイン同好会だより ～第32回同好会開催～	p8
●被災地支援活動紹介 ～女性委員会活動報告～ ○女性委員会 雨森隆子	p9
●近代建築世界一周 No7 ～スエーデンの旅～ ○桜本将樹（横浜支部）	p10
●お知らせ 編集後記	p12

編集 広報委員会
発行 社団法人 神奈川県建築士会
横浜支部事務局 担当：大平由之

231-0011
横浜市中区太田町2-22 神奈川建設会館5F
TEL：045-201-1284 FAX：045-201-0784

暑中のご挨拶

横浜支部長 山成芳直

暑中お見舞い申し上げます。会員の皆様、賛助会員の皆様には日頃より支部運営にご協力いただきまして誠に有難うございます。厳しい経済状況が続き見通し不透明な毎日にもかかわらず皆様から様々なお力添えをいただき、支部運営が活発に進んでいることは大変に有難く支部長として感謝の申し上げようがございません。

横浜支部では5/19（土）に通常総会及び同時開催の講演会、懇親会が終了し、新年度の活動も本格化している状況です。副支部長、委員長を筆頭に多彩な業種、幅の広い年齢層で構成された38名の活動委員が中心となって支部事業の計画・運営をサポートしています。イベント開催に際しては建築士会のメールマガジンや毎月お届けしている会報誌等を利用してお知らせしますので興味のあるイベントには是非ご参加いただき専門性の掘り下げや会員間の交流など建築士会会員としてのメリットを感じていただければ幸いです。

さて、毎月の建築誌にも関連記事が掲載されていますが建築士連合会が昨年度から掲げた“コミュニティ・アーキテクト”の精神は私も同感することが多く、いわゆる「町医者のような建築士」を目指すことは価値の多様化、情報の氾濫、高齢化が進んでいる時代において建築士に対する要請であり、且つ建築士の将来像の重要な一つであると感じている毎日です。一般の方からの様々な相談に対応でき、深い専門性が必要とされる場合には信頼のおける専門家と協同・調整して相談に応えることが今後更に建築士の資質として要求されるものと感じています。 (…次頁へ続く)

そのためには建築士として建築設計だけでなく、街づくり・材料・施工・福祉・環境等 etc. 建築に関連した幅の広い分野の知識・経験を有していることが必要であると思います。それらの一助にもなるとは思いますが建築士神奈川県建築士会では木造に特化した「木造塾」が新設されたり、街づくり・景観維持に関する部会が本格始動するなど多彩な情報やイベントが会員の皆様に今年度も提供される予定です。

昨年同様、節電・省エネによる暑い夏が予測されますが会員、賛助会員の皆様には健康に留意されましてお過ごしされますことをお祈りしてご挨拶とさせていただきます。

第 19 回横浜支部通常総会＋記念講演会が開催されました

□ 神奈川県建築士会横浜支部 第 19 回 通常総会 議事録 □

日時 平成 24 年 5 月 19 日 14 時開会
会場 ワークピア横浜・2F「くじゃく」
司会 中村 秀一

出席数 42 名 委任状 222 名
合計 264 名

司会者は総会に必要な定足数に達していることを述べ、山成支部長は冒頭挨拶に続き、議長席に就き、定刻、開会を宣し、議事に入った。

議事

- 1 平成 23 年度 活動報告案
総務(中村)、技術情報(田中)、厚生(菊嶋)、広報(大貫)
 - 2 平成 23 年度 収支決算案(宮田)並びに監査報告(酒井)
 - 3 平成 24 年度 活動計画案
総務(中村)、技術情報(田中)、厚生(菊嶋)、広報(雨森)
 - 4 平成 24 年度 収支予算案 (宮田)
 - 5 役員改選案(中村)
支部長 山成芳直(留任)
副支部長 落合 博(留任)、渡邊一郎(留任)、二宮智美(新任)
会計 渡邊一郎(新任)
委員長 長井邦夫(新任)、田中克樹(留任)、菊嶋秀生(留任)、桶師徳行(新任)
- 質疑応答(会員数の訂正)の後、各議案は満場一致で承認され、議長は閉会を宣した。(14 時 30 分) 以上

その他

来賓挨拶：坂和 伸賢(横浜市建築局長)

(自 平成24年4月1日～ 至 平成25年3月31日)

□平成24年度
支部活動計画

委員会	活動計画・内容
技術・情報委員会	1. 建築技術・情報に関する講習会、勉強会、懇談会等の開催 2. 建築セミナー及び建築・街づくりツアー等の開催 3. 他会・他団体との情報交換や企画、展示会の協力、後援や合同開催
厚生委員会	1. 親睦会の開催(夏のビアパーティ) 2. 日帰りバス研修旅行の開催 3. 同好会(テニス、絵画、ワイン)活動の実施
広報委員会	1. 横浜支部だよりの年3回発行(総会・委員会・同好会の活動報告) 2. 支部だより充実のための記事を検討、掲載 3. 本会及び他支部との連携強化
総務委員会	1. 各種会議の開催 通常総会の開催(5月)、役員会(年4回)、合同委員会(年4回) 総務委員会(年10回)、正副委員長会議(随時)、その他小委員会(企画・賛助) 2. 賛助会員との交流 3. 建築関連講演会 4. 建築物の見学会企画、実施

□平成24・25年度
横浜支部組織図



懇親会の様子

【総会記念講演会】

建築家：中村好文氏講演 — 「小屋の流儀」「設計の流儀」 —

神奈川県建築士会横浜支部総会は、5月19日ワークピア横浜にて行われました。記念講演は建築家、中村好文さんの「流儀」のお話しでした。

中村好文さんについては、「住宅巡礼」等の著書の素朴なスケッチや、プリミティブな印象の「小屋」の設計、肩肘張らない柔らかさに魅せられた人も多いのではないのでしょうか。今回の中村好文さんもそのイメージどおり。

講演は、第1部「小屋の流儀」、第2部「設計の流儀」という2部構成で進みました。

第1部は、「建築家はワンルームにの建築によって記憶される」という、あのぐっとくる言葉から始まりました。（この言葉、エーリヒ・メンデルゾーンの言葉だったか、とあらためて再認識）ル・コルビジエの休暇小屋、ヘンリー・デビット・ソローの森の生活、高村光太郎の炭小屋、鴨長明の方丈、、、そして中村好文氏設計の三谷ハット、ルナハット、レムハット。「線と管につながっていない小屋」つまり電気やガス、給排水といった設備に縛られていない小屋、がどれほど気持ちよいか。

第2部「設計の流儀」では、北海道の若い夫婦が営むパン工場の設計を迫っていきました。パン職人の「神（じん）さん」からの手紙で始まった設計、上棟式でふるまわれたパンのおひねり、工場の完成、礼拝のように神聖なパン窯の火入れ式。そして講演の話の最後は中村氏から神（じん）さんへの手紙で締めくくられました。

中村氏は終始リラックスした様子で、途中「スライド、お願いします。次、、、あ、自分でやるんだった。」（笑）というゆるさとユーモアで聴衆を和ませながら、新規性や俗性よりも平凡さや普通なもの、見ていて気持ち良いものがよいというシンプルな感覚、ご自身の設計の原点を確かめるように語っていました。

ただし中村さんの「普通」の中には、実は甘美なロマンティックと、徹底したローテクが含まれていて、おそらくその独特な空気が人を惹きつけるのだと思いました。

いつか自分も、ロマンティックなピアニストのために、朝の光が射し込む究極的にロマンティックな小屋を設計したいもの、とつい思い描きました。（厚生委員 小田川友子）



「絵画同好会」だより

～江の島をスケッチしよう～



「江ノ島をスケッチしよう」という企画で 6月10日(日)、真夏を思わせる初夏の日、鎌倉路散策からスタートしました。円覚寺で説教を聴き、明月院で真っ盛りのアジサイを堪能し、「葉 祥明美術館」で、葉 祥明の世界に浸り、江ノ電に乗り、江ノ島へ。



「葉 祥明美術館」前にて



明月院のアジサイ

湘南の海風に吹かれながら、江ノ島をスケッチしました。ランチはもちろん、生しらす丼。サザエのつぼ焼きの香りがする参道を歩き、江ノ島の頂上へ。絶景かな、絶景かな。



高橋 会員の作品



藤井 会員の作品



テニス同好会だより



定例会報告

・平成24年1月14日(土)

練習PM 5:00~7:00

金沢産業振興センターA・Bコート参加13名
テニス初めて、多くの参加がありました。
新年会は新杉田「笑笑」にて 参加15名
会長からの年頭のあいさつ!



・平成24年2月11日(土)

練習PM 5:00~7:00

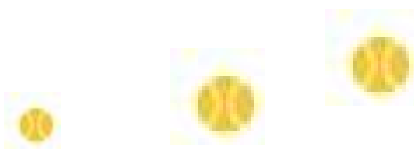
金沢産業振興センターAコート参加6名
寒空の下、天候に恵まれました。



・平成24年3月10日(土)

練習PM 3:00~7:00

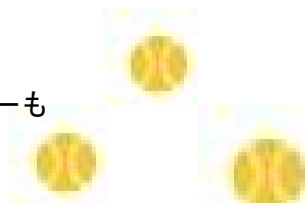
金沢産業振興センターAコート参加6名
震災後早1年、1年前は計画停電、節電等の影響でコートが使えない状況
でした。



・平成24年5月26日(土)

練習PM 5:00~7:00

金沢産業振興センターAコート 参加8名
4月は雨で中止になりましたが、久しぶりのメンバーも
参加されました。



・平成24年6月23日(土)

練習PM 5:00~7:00

金沢産業振興センターA・Bコート 参加10名
支部総会にて念願の女性をスカウトし初参加されました。
これからが楽しみです!(^^)!



第5回 横浜支部 テニス同好会 (K.Y.T) 総会報告

去る5月19日(土) テニス同好会の総会を開催いたしました。会長、副会長留任

○活動計画：定期練習、対外試合他

同好会会員募集中!

皆さんが参加しやすいように、定期練習は月2回コートを予約する予定です。
テニスに関心のある方どなたでも参加可能です。特に女性大歓迎!お気軽に連絡下さい。
ご連絡の際はメールの場合でもお名前、連絡先の記入をお願いします。

連絡先：玉野 045-894-8452 FAX893-6614

他支部との交流

今回の企画は、本会の福利厚生委員会から支部対抗試合テニス大会の案が出ましたが、会場等の問題があり、企画が難しいことから合宿によって交流を深めようということになりました。各支部に問い合わせたところ、委員の大島さん所属の県央支部の方々が参加されました。幹事、並びに皆さんお疲れ様でした。

春の合宿



日 時：2012年5月12日（土）～13日（日） 場 所：沼津ニューウェルサンピア 16名参加
県央支部 大島 淳二



決して宴会が目的ではない、テニスの腕と足を競うために集まった16名。しかし、宴会も楽しからずや、と古い表現で書き出したこの「合宿記」の写真がご覧の通りコートではなかった。毎月開かれる福利厚生委員会の席上でこれまでに企画にのっていたのは「バス旅行」「一泊研修旅行」「ゴルフ大会」そして「演芸愛好会」、そこに割り込もうとしたのが「テニス大会?」。様々な遊びを通して会員同士の交流を図る目的がそこにはある。では、取り敢えずテニスを加えてもおかしくないだろうと提案した所、横浜支部テニス同好会が毎年開催している合宿に他支部の参加を呼びかける試みから将来発展してゆくことが可能かどうか、と成田さんが受け止めて下さり実現した合宿だった。連休が終わり少し落ち着いた頃を見計らって組まれた日程は5月12日、13日だった。初日は現地に9時集合、そして10時

から2時間の練習は竹中さんの練習メニューに従いハーハー息のあがった人たちも、午後のA組、B組に別けられた対抗試合では表情を変えた、と見えた。（上級者は滅多には変わらなかったが・・・）そして3時間後には冷酷?!な試合結果が待っていた。やはり上手な人は誰と組んでも負けないものなのだ痛感させられた。（クヤシイ!）その試合結果の発表は、これから楽しもうという宴会の前に幹事さんたちが苦労?それともニヤニヤしながらペーパーにはっきり書き出されていた。それを見て組み合わせを恨んだ?方もいたのではないかと自分（大島）の悪い成績を振り返ってみたりした。そしてワインが悪い結果を薄めてくれた。（ヤレヤレ）二日目は午後1時までのフリーな組み合わせ試合を楽しみ、汗と恥を流して魚市場に向かった。想像以上に賑わったその周りを眺めながら食堂の列に並んだ。そして海鮮丼を平らげて誰かが云った「何年か経ったら、ここの印象が一番強く残っているんじゃないの」と。そうかも知れない、しかし楽しいテニス大会でした。有り難うございました。

「ワイン同好会」だより

～第32回ワイン同好会に参加して～ 王子和匠

4月6日(金)、山手十番館において開催された第32回ワイン会に初めて参加させていただきました。

最初は、シャンドン・ブリュット・ロゼ・NV というスパークリング。さわやかな味わいのあるスパークリングでした。この頃はまだまだかなり緊張していたため、味わうというよりも、周りの方と話を合わせるのが精いっぱいでした。

2本目がブーズロン・アリゴテ '09。3本目がシャサーニュ・モンラッシェ・ブラン' 96 というシャルドネ種の白ワイン。アリゴテ種のフレッシュでさわやかな青リンゴのような酸味に対し、シャルドネはグレープフルーツの酸味のような感じがし、色に関しても比べてみるとこんなにも違うものかと驚かされました。

4本目が、コート・ド・ニュイ・ヴィラージュ・オー・モンターニュ '07、5本目がアロース・コルトン '95、6本目がボーヌー級ブレッサンド' 95。すべて赤ワインのブルゴーニュのピノ・ノワール。3種類のグラスを並べて飲み比べました。そのため、それぞれの味わいというより、私の好みでは、アロース・コルトンの果実の香りと、素晴らしいバランスが、他の2本を引き立て役にまわってしまったようで、飲み方を間違えたかと反省しました。しかし、それぞれが持つ果実の複雑なバランスと香り、そして酸味。同じ品種でもまとめて飲んでみないとわからない違いがあり、良い経験をしました。

最後は、赤のコネタブル・タルボ 07。ボルドーのカルベネ・ソーヴィニオンとメルロー。ピノとは対照的なブドウ、豊かな香りの中にしっかりしたタンニン。重めの味が好きな私にとっては、これは美味しいなと思いました。

ワインというのは、うんちくを聞くのもまた一つの楽しみなので、ソムリエの方が、不在ということで、そこは残念でした。好きなワインを飲みたいだけ？気軽にいただけるこのようなビュッフェ形式のワイン会。自由に飲み比べて初めて分かる違いに気づかされ、



アルコールのせいもあり、いろいろな方と気軽に歓談でき、大変楽しく参加させていただきました。次回を楽しみに、ありがとうございました。



女性委員会活動報告

女性委員会 雨森 隆子



女性委員会は、平成23年度より新たな活動がスタートしました。「『地域コミュニティの再生』と『ECO』を考慮した災害時活用住宅のあり方」をテーマに女性の視点から防災を考える長期的なプロジェクトに取り組んでいます。



東日本大震災は、15,866人の尊い命を奪い、2,946の方が未だ行方不明(内閣府防災情報H24.6より)と言う状況です。甚大な被害に、だれしものが地震、津波の脅威を知らされました。



大震災後は、多くの方が避難生活を強いられる状況の中、いち早く家族が安心して暮らせる住まいが必要だということ。また、豊かな暮らしを取り戻すのは、地域のつながりが重要であること。災害後の瓦礫処理の問題解決には、環境を考慮した住まいを考える必要があります。



しかし、被災経験のない私たちにとって、机上で検討しても分からない事ばかりです。被災地を知ること、被災地に行き、地元の人と関わり、生の声を聞き、肌で感じ取ってくることから始めることにしました。



被災地である岩手県建築士会女性委員会とつながり、会の活動である「花咲プロジェクト」に参加(昨年10月、今年5月に野田村の仮設住宅)させて頂きました。「花咲プロジェクト」は、仮設住宅に花を咲かせていくという女性視点の活動です。



これまで、テーマの基礎勉強として、仮設住宅の実践事例(工学院大学:後藤教授)、被災地の報告(岩手県建築士会女性委員会)、被災地から学ぶ住宅地盤のセミナーを開催しました。

「花咲プロジェクト」を女性委員会は、プロジェクトが続く限り、応援致します。このプロジェクトの資金源である「いわて芝棟ものがたり」(いわての古民家に石川啄木と宮沢賢治の詩を添えて小冊子で、東京大学名誉教授の藤森先生の解説付)にご協力頂きます様よろしくお願い致します。

これまで、ご協力頂きました皆様、ありがとうございました。

*** 女性委員を募集中です!! ご連絡は、土会事務局担当へ**

近代建築世界一周（No. 7） —スウェーデンの旅—

【はじめに】

スウェーデンはデンマーク、フィンランドと比較すると私が見てきた近代建築の数は少なめですが、この国にはランドスケープ・デザインの最高峰「森の火葬場」があり、また世界で最も美しい書架を持つ「ストックホルム市立図書館」を見ることができます。それ以外にも6月のストックホルム郊外では、美しい草原の風景に出会うことができます。（写真①）

【ストックホルム】

水の都ストックホルムは海沿いの町で、イタリアのヴェネチアと同様に、海からの風景がとても美しい町です。その中でも、ヴェネチアのサン・マルコ広場を意識した、ストックホルム市庁舎1923年（写真②）はナショナル・ロマンティシズムの外観がやわらかく美しいプロポーションをみせています。

【ヨーテボリの近代建築】

列車でオスロー（ノルウェー）からコペンハーゲン（デンマーク）に向かう途中で、ヨーテボリという町を訪れました。運河と公園の街路樹がきれいな町、スウェーデン第2の都市ですが、その町ですばらしい近代建築に出会えました。

新旧の市街地を結ぶ町のメインストリートの突き当たりにはヨータ広場があります。その広場正面に、シンプルですが古典的ファサードを持つヨーテボリ美術館1923年（写真③）が威風堂々と聳え立っています。その両側に初期近代建築の形態を見せる市立劇場1934年（写真④）、コンサートホール1935年（写真⑤）が並んでいます。その他、市立図書館などを含めて、一大文化センターを形成しています。

これらはアルヴァ・アアルトがフィンランド各地で設計した市役所を含む文化センター群を想起させ、アアルトのデザインルーツを探っている感覚になります。美術館の基壇に立つと、メインストリートが一望でき、地元の人が夕日を見ながらのんびりとした時間を過していました。

【交通・安全】

移動は殆どが列車でしたが、夏のスウェーデン郊外の広大な草原をのんびりと楽しむならレンタカーがお勧めです。他の北欧の国々と同様に観光案内所は充実しています。

【スウェーデン建築のベスト5】

それほど多く見ていないスウェーデンの建築ですが、ピックアップするとなると、なかなか難しく、私の見てきた建築作品群の質の高さを改めて実感できます。



①草原の広がる風景(ヤコブスベルク)



②ストックホルム市庁舎（ストックホルム）



③ヨーテボリ美術館（ヨーテボリ）



④市立劇場（ヨーテボリ）



⑤コンサートホール（ヨーテボリ）

1. 森の火葬場 1940年 (G・アスプルンド&S・レヴェレンツ) (写真⑥)

これぞランドスケープ・アーキテクチャの最高峰であり、スウェーデンが世界に誇る近代建築の最高傑作です。その緻密に計算されたアプローチは、墓地の入口から既に始まり、のどかな芝生の丘（瞑想の丘）がこの森の更なる魅力へと導いてくれます。

ここでは墓地としての森の心地良さに最大の魅力を感じますが、そう感じさせるさりげないデザインが随所にみられます。



⑥森の火葬場(エンシェーデ)

2. スtockホルム市立図書館 1927年 (G・アスプルンド) (写真⑦)

幾何学的構成が近代初期の建築を思わせますが、そのすばらしさは内観にあります。狭く薄暗い階段を上るといきなり円形の閲覧ホールに出ます。側壁にびっしりと積み上げられた書籍はカラフルで、美しく飾られた美術作品を見ているようです。近代の図書館建築の最高傑作と言っても過言ではありません。



⑦市立図書館(ストックホルム)

3. ヨルヴェルンの墓地 1977年 (パール・フライバーグ) (写真⑧)

青い空、広い野原、深緑の山のふもとに小さな池、その側には礼拝堂が鐘楼を伴って建てられ、山の中腹のメモリアルエリアから一直線に池まで水が引かれています。初めて訪れた私に、案内標識もなしに、鐘楼、礼拝堂、池、水路に誘導し、メモリアルエリアまで誘ってくれました。景色の美しさ、計算された配置、ランドスケープ・デザインのすばらしさは驚嘆に値します。



⑧ヨルヴェルンの墓地(ヤコブスベルグ)

4. 聖マルコ教会 1963年 (S・レヴェレンツ) (写真⑨)

白樺林の中に静かに佇む外観には、中庭のスケール感のよさやさりげない十字架の配置にセンスを感じます。内観では重厚なレンガ壁に穿たれた開口から絵のように切り取られた白樺の木が見え、様々な方向から光が壁に映りこみ、ペンダントライトが空間の神秘性をさらに高めています。



⑨聖マルコ教会(ストックホルム)

5. ウップサールの学生会館 1965年 (アルヴァ・アアルト) (写真⑩)

この建物の特徴はヴォクセンニスカの教会など、他のアアルト作品のように大きな可動間仕切壁によって内部空間を分割できることです。外壁に大きく張り出した可動間仕切壁の収納部分が立面上にインパクトを与えています。エントランスのうねる庇、うねる内壁などもアアルト特有のデザインです。現在は屋上にウッドデッキを敷いて、トップライトを覆っているため、ホールの天井からの光がさしこみにくいのが残念でした。



⑩学生会館(ウップサール)

この国では美しい風景のなか、2つのランドスケープ・デザインに触れ、大きな感動を覚えました。次回訪れるときは、各地にある墓地を廻り、森の火葬場との比較をしながら、スウェーデンのランドスケープ・デザインの本質に触れてみたいと考えております。

参考文献『ヨーロッパ建築案内 (3)』TOTO出版 淵上 正幸 著

『近代建築世界一周』ADP出版 桜本 将樹 著

建築士会会員 桜本 将樹



神奈川県建築士会 横浜支部
夏の納涼会♪ のお知らせ



～横浜支部厚生委員会主催～

LIVE♪を聴きながら、夏の納涼会

- 【日時】 平成 24 年 8 月 31 日(金) 18:30～20:45
 【会場】 幸せな一皿 -洋食の taku- (横浜市中区山下町 25-15)
 【定員】 40 名
 【参加費】 会員 ¥4,000
 賛助会員 ¥6,000
 非会員(要会員同伴) ¥6,000
 ※会費は、当日徴収させていただきます。
 【応募締切】 平成 24 年 8 月 24 日(金)
 【申込方法】 会誌同封チラシにて f a x で、お申し込みください！
 【問合せ】 神奈川県建築士会 事務局 (045-201-1284)



広報委員会からのお知らせ

横浜支部ブログへの投稿をお待ちしております！！

支部へのご要望、支部だよりについてのご意見、記事掲載のご依頼など何でも結構です。書き込みの際は次の ID・PW をご使用ください。(ID : yokohama-sibu PW : blog4u)

<http://blog.goo.ne.jp/yokohama-sibu>

なお、横浜支部ホームページでは、過去の支部だよりをカラー版でご覧いただけます。

<http://www.kanagawa-kentikusikai.com/sibu/yokohama/shibudayori/shibudayori.html>

編集後記

最近、知り合いより、紅茶にピッタリのお菓子と紹介された*カヌレ*フランス・ボルドー地方の焼菓子。日本では、1990 年代初め爆発的なブームになったらしいのですが、、、知らなかった！！菓子型がぎざぎざ状(カヌレ)からのネーミング。寸胴でぎざぎざが花形に見える愛らしい*カヌレ*今、無性に食べたいお菓子です。ちょっと、休憩しませんか！！(雨森)

…というわけで。今号は第 19 回支部総会特集です。また、あの 3.11 を風化させまいと、昨年 55 号の支援記事に引き続き、今回は本会女性委員会の活動を取り上げてみました。広報委員会も本年度より新体制です。

話題・気づき・刺激・交流・あそび?…紙面がその契機になれば幸いです。(桶師)

編集 横浜支部広報委員会

編集スタッフ(あいうえお順)

雨森隆子・大北晋一郎・大貫 浩・桶師徳行・小野寺安紀子・玉野直美・丸山幸一・吉原直美